

## 日本人小児における自己申告の摂食速度と過体重のリスクとの関連：琉球小児健康調査

目的：小児期や思春期において摂食速度が肥満に与える影響に関する疫学的知見は非常に限られているのが現状です。そこで、日本人小児を対象として、自己申告の摂食速度と過体重との関連を検討しました。

対象：この横断研究の対象者は、15974 人の小児男女（6～11 歳、男子 7956 人、女子 8018 人）および 8202 人の思春期男女（12～15 歳、男子 3944 人、女子 4258 人）でした。

方法：摂食速度の評価は自己申告で行い、以下の五つのカテゴリに分類しました：「とても遅い」、「やや遅い」、「ふつう」、「やや速い」、「とても速い」。食事摂取量の評価には、日本人小児用の自記式食事歴法質問票を用いました。申告された身長および体重の値から body mass index (BMI, kg/m<sup>2</sup>) を算出しました。過体重の定義には、International Obesity Task Force の性・年齢別の BMI カットオフ値（成人の BMI の 25 以上に相当）を用いました。

結果：対象者のうちの 13.2%が過体重と分類されました。どの集団においても、摂食速度は過体重のリスクと統計学的に有意な正の関連を示し、この関連はたんぱく質、脂質、および食物繊維摂取量と独立していました。「とても遅い」、「やや遅い」、「ふつう」、「やや速い」、および「とても速い」の各群の過体重のリスクに対する調整済みオッズ比 (95%信頼区間) は、小児男子において 0.31 (0.20, 0.49)、0.49 (0.40, 0.60)、1 (基準)、2.81 (2.42, 3.26)、4.49 (3.47, 5.81)、小児女子において 0.42 (0.31, 0.58)、0.49 (0.41, 0.59)、1 (基準)、2.74 (2.27, 3.31)、5.69 (3.75, 8.63)、思春期男子において 0.13 (0.03, 0.54)、0.43 (0.28, 0.65)、1 (基準)、2.74 (2.27, 3.31)、3.84 (2.77, 5.31)、思春期女子において 0.55 (0.30, 1.01)、0.46 (0.33, 0.65)、1 (基準)、1.30 (0.99, 1.71)、1.49 (0.84, 2.65) でした。

結論：日本人小児男女および思春期男女において摂食速度は過体重のリスクと独立した関連をもつことが、今回の大規模な横断研究によって示されました。

出典： Murakami K, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Arakawa M. Self-reported rate of eating and risk of overweight in Japanese children: Ryukyus Child Health Study. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo) 2012;58(4):247-52.

